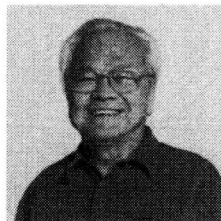


土壌と健康

北里大学名誉教授
元農業環境技術研究所理事長

陽 捷行



有機農業活動の淵源といわれるハーワードが書いた「ハーワードの有機農業・2002」という本は、土壌・植物・動物・人間が、一つの鎖の環で結ばれているという法則を基盤にしています。この本の原題は、実は「土壌と健康：THE SOIL AND HEALTH」なのです。

この本は、環の法則の本質をみごとに説明しています。たとえば病気と健康の事象にせまる4つの鎖、すなわち最初の一環(土壌)・二環(植物)・三環(動物)・四環(人間)の流れが壊れると病気になる、鎖が健全にながってれば、健康になると説明しています。また生命の源としての土壌は、いま生きている人間ののための食料生産だけでなく、未来の世代への

土壌・植物・動物・人間という鎖の環

贈り物として、注意ぶか
く使わなくてはならない
とも、解いています。

できなくなってきました。玉菌・日和見菌があった。これらの菌のバランスが人間の健康を左右しているなどの話は、腸内の微生物叢のことです。

これらのことを深める「土壌の肥沃度と人間の健康」「病気の本質を探る」という章があります。ここでは、土壌・ガンなどの疾患は、すべて健康に保たれれば、予防医学・公衆衛生・食物の質の保証・免疫力などが促進されると書かれています。そのためには、土壌のなかの有機物が大切だと解かれています。しかし近代科学が発展し、それに伴って人間の脳のシステムは上に述べた「土壌・植物・動物・人間が一つの鎖の環で結ばれている」という法則を排除したのか、あるいは忘却の彼方に追いやってしまいました。その結果、近代人の多くが土壌と健康の間には、深いつながりがあることを理解

できません。ところが、近年、モンスが人間の健康を左右しているなどの話は、腸内の微生物叢のことです。七大栄養素のなかに、植物繊維があります。健全な腸内微生物は、この植物繊維を分解して、セロトニンやドーパミン前駆物質を作ります。これらの神経伝達物質は、腸から血液に溶け込み脳に到達し、精神安定・快感・意欲などの働きをしてくれ、人間を健康に導きます。土壌細菌と腸内細菌の多くは、共通して腐生菌の系統にあるのです。これまでの話は、つぎのようにまとめることが出来るでしょう。「作物のことは土壌に質せ、健康のことも土壌に質せ」。